

サービ斯拉ーニングを振り返って

社会福祉学部保健福祉学科 2年 中川 功大

活動先：NPO 法人 もやい

クラス：村上 徹也 先生

このサービ斯拉ーニングの研修、活動について、私はとても素晴らしいものだと感じた。それはなぜかという、このサービ斯拉ーニングでは、地域福祉の実態や今後の課題を見出せるのはもちろん、それを振り返り、考えることによって自分自身が成長できるからだ。実際、私自身もこのサービ斯拉ーニングの研修や活動で成長できたことをとても実感している。今回このレポートでは、そんな自分が成長できた点やその理由、地域福祉の今後の課題やその難しさについて述べていきたい。

まず私が成長できたのは、服装についてだ。夏休みの活動として、私は阿久比町にあるNPO 法人もやいにお世話になったのだが、その活動に私はいつも学校に着て行くような服装で行った。それがふさわしい格好だと思っていたのだ。少なくとも、失礼な格好などとは思ってもみなかった。しかしそこで、もやいの理事長である安井さんにきっぱりと「そんな格好は失礼だ」と言われたのだ。それを言われた時、正直私はいらっとした。利用者さんに暗いイメージを与えないために明るめの色の服を選び、できるだけ動きやすいズボンをはいて行った。自分なりに考えた格好で行ったのだ。そのため、なぜそれがだめなのかととても悩んだ。そうして悩んだ結果、年齢による考え方の違いという結論にたどり着いた。私が考えて着て行った明るめの服がご年配の方々の目にはチャラチャラしているという風に映ったのだ。そこで私は、服装は自分で考えて決めるだけではなく、相手のことをまず念頭に置いて考えなくてはいけないということを学んだ。今思えば、そんなことは少し考えればわかることだ。自分がどれほど未熟だったのかと思い知らされた。

その他に学んだことは、計画することの大切さだ。サービ斯拉ーニングの活動の中で、「星空を見る会」というものを行ったのだが、それを行うのに必要な望遠鏡や星の知識に長けている方の招待、悪天候によって中止にならないための日にちの設定、そのすべてが私たちに託された。利用者さんも大勢訪れ、みんなが楽しみにしていた一番大きなイベントだったと思う。しかし、私たちはまず星の知識に長けている方の招待に失敗した。結局その方は別の日に来ていただけということになったのだが、それによる日にちのずれで悪天候になってしまい、星を見ることができなかった。それはすべて、私たちが緻密に計画することを怠ったせいだ。安井さんは、「計画することが完璧にできたならばその活動は 98 パーセント成功だ。あとは自分たちが頑張るだけ。」とおっしゃっていた。本当にその通りだと思った。今は、その言葉の大切さが痛いほどわかる。

そして最後は、利用者さんの楽しませ方だ。今までは利用者さんに楽しんでもらうには自分が頑張るしかないと思っていた。しかし、すぐに違うとわかった。もちろん、自分も頑張らなくてはいけない。しかしそれ以上に、自分が楽しまなくては相手にも楽しいという感情が伝わらない。そこから自分が楽しむということが一番大切だと学んだ。

今回学んだことはまだまだあるが、私はもやいを活動先に選んでとてもよかったと思う。それは、そこで働くスタッフの皆さん、特に安井さんがとても物事をきっぱりという方だ

からだ。確かに、言い方はかなりきつめでこちらからすると少々傷つく。しかし、それが愛のむちなのだと思うようになってからはその言葉一つ一つがとてもありがたいものなのだと実感し、それを受け入れた。皆さんにあれほどものをきっぱりと言っていたかなければ、特に服装や計画性の大切さなど気付けてはいなかっただろう。とても感謝している。

私は初めもやいに行ったときにふと思ったことがある。それは、そこで働くスタッフに若者と男性がいないということだ。しかし、その時私はそのことをあまり深く考えておらず、軽い疑問点として頭の片隅に置いていた。そして夏休みの活動が終わり、サービスラーニングの授業で「今回気づいた地域福祉の課題点」という内容で考えるというものがあった。そして皆の意見のほとんどが若者や男性が少ないということだった。そこで皆でそのことについて話し合ったのだ。そしていろいろな意見が出てきた。その意見の中で最も有力だったのが、収入である。NPO 法人というものは収入が少なく、安定もしていない。私もそうなのだが、収入の安定した場所に就職したいと思う若者がほとんどだろう。それを活動報告会で発表したのだが、やはりこれはあくまで若者の考え方であって、NPO 法人のスタッフさん方には伝わらなかったようだ。そのような若者との考え方の違いも、私は今後の課題だと思う。同じように、スタッフに男性がいないというのもそのような理由が挙げられるだろう。男性には一般的に、家族を養わなくてはいけないというプレッシャーがかかる。そのため、収入の少ないNPO 法人で働く男性は、自然と少なくなるのだろう。

このように、地域福祉の問題点を挙げたわけだが、今回私はこのサービスラーニングの活動を通してとても強く思ったことがある。それは、このような施設がもっと多くあるべきだということだ。世の中には、自分の周りのことが自分でできないほどの認知症にも関わらず、生活の援助を頼めるような身寄りがないといった人たちが大勢いる。そんな時、生活支援のために家まで来てくれ、身の回りのことのほとんどをやってくれるNPO 法人というものがとても重要になってくる。それなのに、世の中の人々には、NPO 法人というものがあまり定着しておらず、中にはその存在すら知らないという人もいるかもしれない。このように、NPO 法人の数や認知度が乏しい理由として、やはり先ほど述べた収入に関する問題点が挙げられるだろう。収入がしっかりしていれば、そこに就職したいと希望する人は増えるだろう。そして人気が出てくれば、NPO 法人の数も増えてくるだろうし、数が増えれば自ずと認知度も上がってくると思う。やはりお金の問題というのは、簡単に思えて解決するのがとても難しく、もし解決できたならその効果は絶大だということも今回の研究でよくわかった。それを解決するために自分には何ができるのかということも、日本福祉大学の学生として考えていきたい。

このサービスラーニングは、日本福祉大学に通うすべての学生に体験してほしいと思うほど、貴重な体験だった。2年次のゼミが、サービスラーニングで本当に良かったと思う。